

現在、人工知能学会への投稿論文は、AI フロンティア論文、原著論文、萌芽論文、速報論文の4カテゴリーに分かれます。この中で、AI フロンティア論文は、新しい研究領域を開拓し学会を活性化させる目的で2003年5月に新設されましたが、残念ながら、あまり多くは投稿されませんでした。

編集委員会では、この状況をレビューし、魅力的な論文とは何か、査読基準をどうするのか、などについて議論を重ね、2010年9月より、AI フロンティア論文を発展的に解消し、原著論文としてのコンセプト論文（斬新な発想による新しい概念や方式で、魅力的内容で発展性があると判断される論文）、原著論文としての実践AI システム論文（人工知能に関わる実践的なシステムについての多様な知識やノウハウに関する論文）を新たに設置することとしました。

従来の論文も含めて、下記に人工知能学会で取り扱う論文カテゴリーと査読基準をまとめますのでご覧ください。各論文カテゴリーに皆様からの積極的なご投稿を期待しております。なお、2010年9月～12月までは過渡期ですので、旧論文カテゴリーでも投稿を受け付けます。

(1) 投稿論文のカテゴリー

表1に投稿論文のカテゴリーをまとめます。

表1 投稿論文のカテゴリー

カテゴリー	内 容		ページ数* (刷上りページ数)
原著論文	コンセプト論文	斬新な発想による新しい概念や方式で、魅力的内容で発展性があると判断されるもの。	ページ数の上下限は設けない。
	技術論文	人工知能に関わる完成度の高い研究について論じたもの。	原則 8p 程度
	実践 AI システム論文	人工知能に関わる実践的なシステムについての多様な知識やノウハウであり、会員が他の事例に展開可能な議論を含み、当学会がオーソライズする意義のあるもの。	
萌芽論文	人工知能に関わる発展途中の研究について論じた論文。		原則 8p 程度
速報論文	人工知能に関わる新しい研究開発成果の速報。		原則 2～4p

*題目、図表、著者紹介などをすべて含めた論文の枚数。

(2) 投稿論文の査読基準

下記に各論文カテゴリーの査読基準を示します。

①原著論文（コンセプト論文）

学問分野がある程度確立され成熟してくると、厳密な定式化、そして信頼性のある評価実験による有用性の検証などを備えた完成度の高い論文が要求されるようになります。これは学問の自然な発展の傾向であるといえますが、人工知能研究そのものがもつ cutting edge 的性質にはそぐわない性質であるともいえます。人工知能研究の分野を開拓してきた先端的研究は、論文に対する上述のような成熟分野の基準では判断できないと思われれます。

例えば、Minsky の Frame 理論の論文、一般フレーム問題、ロボカップの提案など、多くの研究は学問と技術の進展に大きな貢献をした成果であります。そのいずれも、発表時点においては、成熟分野の基準では評価することの難しい仕事であったといえます。また、これらの研究は、提案時点においては実証が不十分であっても「意義ある提案」といえる概念や方式の提案、あるいは問題提起であり、そのために膨大な努力がなされていますが、その有用性が目に見えるようになるまでは時間がかかります。

コンセプト論文はこのような論文を進んで採録することを目的としています。査読方針としては、定量的評価および客観的評価はあまり重視せず、編集委員の責任のもとで判断することとします。

②原著論文（技術論文）

内容に新規性・有用性があり、かつ十分な裏付けにより信頼性があり、会員に有用であると認められるものとします。この評価基準は従来と同じです。

③原著論文（実践 AI システム論文）

下記に限るわけではありませんが、実践 AI システム論文の主な例を示します。

1. 問題に即した既存技術の有効な使い方
2. 既存技術の有用な組合せ方
3. 有用なツールの開発
4. 面白いアプリケーションの開発
5. 既存技術の効果的な実現法
6. AI システムが有効に働く環境の分析
7. 技術内容を含むビジネス価値・開発コストの評価
8. AI システムの開発・運用におけるノウハウの体系化

伝統的な論文査読基準では、新規性、有用性、信頼性の面から実験結果などに基づく客観的な評価が求められますが、実践 AI システムではそれらを完全に満たすことが困難な場合も少なくありません。そこで、査読方針としては、会員がほかの事例に展開可能な議論を含み、当学会がオーソライズする意義があるかどうかを判断し、十分に客観的評価結果を提示できない正当な理由が存在し、かつ提案するしくみから得られる作用や効果が論理的に矛盾のない形で主張されているならば、定性的な評価でも問題ないこととします。

④萌芽論文

将来の発展を期待させる構想および一定の研究成果を含み、達成された部分と未完の部分が明確に区別され、会員に有用な知見をもたらすと認められるものとします。

⑤速報論文

内容に新規性があり、会員に有用であると認められるものとします。ただし、十分な裏付けなどは必要とはしません。